



⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
コンピュータ概論	2		○	○	○						
経営統計学	2		○	○	○						
データ分析演習	2		○	○	○						
電子文書実務	2			○	○						
アプリケーション演習	2			○	○						
情報リテラシー	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット 「経営情報概論」(第15回)</li> <li>・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 「経営情報概論」(第15回)</li> <li>・複数技術を組み合わせたAIサービス 「情報社会論」(第8回)</li> </ul>
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど) 「経営情報概論」(第15回)、「情報社会論」(第6回)</li> <li>・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など) 「情報社会論」(第6回)</li> </ul>
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど 「情報社会論」(第9回)</li> <li>・データ作成(ビッグデータとアノテーション) 「情報社会論」(第9回)</li> <li>・データのオープン化(オープンデータ) 「情報社会論」(第9回)</li> </ul>
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など) 「情報社会論」(第10回)</li> </ul>
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ解析:予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など 「情報社会論」(第11回)</li> <li>・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など 「情報社会論」(第12回)</li> </ul>
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案) 「情報社会論」(第12回)</li> </ul>

(4)活用に当たつての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues) 「情報ネットワーク概論」(第11回)、「経営情報システム論」(第14回)</li> <li>・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト 「情報ネットワーク概論」(第11回)、「経営情報システム論」(第14回)</li> <li>・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 「情報ネットワーク概論」(第11回)、「経営情報システム論」(第14回)</li> <li>・データバイアス、アルゴリズムバイアス 「情報ネットワーク概論」(第11回)、「経営情報システム論」(第14回)</li> <li>・データ・AI活用における負の事例紹介 「情報ネットワーク概論」(第11回)、「経営情報システム論」(第14回)</li> </ul>
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性 「情報ネットワーク概論」(第5回)、「経営情報システム論」(第14回)</li> <li>・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取 「情報ネットワーク概論」(第6回)、「経営情報システム論」(第14回)</li> <li>・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 「情報ネットワーク概論」(第5回)、「経営情報システム論」(第14回)</li> </ul>
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの種類(量的変数、質的変数) <b>「情報リテラシー(第5回)」</b> —「コンピュータ概論」(第13回、第14回)、「データ分析演習」(第12回)</li> <li>・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値) <b>「情報リテラシー(第5回)」</b> —「コンピュータ概論」(第13回、第14回)、「経営統計学」(第2回、第3回、第7回)、 —「データ分析演習」(第3回)</li> <li>・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い) <b>「情報リテラシー(第5回)」</b> —「経営統計学」(第2回、第3回、第7回)、「データ分析演習」(第3回)</li> <li>・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値) <b>「情報リテラシー(第5回)」</b> —「経営統計学」(第4回～第6回)、「データ分析演習」(第4回)</li> <li>・観測データに含まれる誤差の扱い <b>「情報リテラシー(第5回)」</b> —「経営統計学」(第7回～第9回)</li> <li>・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡) <b>「情報リテラシー(第8回)」</b> —「コンピュータ概論」(第13、第14回)、「データ分析演習」(第6回、第9回)</li> <li>・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 <b>「情報リテラシー(第8回)」</b> —「データ分析演習」(第12回、第13回)</li> </ul>
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ) <b>「情報リテラシー」(第6回)</b> —「コンピュータ概論」(第13回、第14回)、「アプリケーション演習」(第6回)、 —「電子文書実務」(第7回、第12回)、「経営統計学」第2回、 —「データ分析演習」(第6回、第10回～第13回)</li> <li>・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) <b>「情報リテラシー」(第8回)</b> —「データ分析演習」(第10回～第13回)</li> <li>・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) <b>「情報リテラシー」(第8回)</b> —「コンピュータ概論」(第13回、第14回)</li> </ul>
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの集計(和、平均) <b>「情報リテラシー」(第9回)</b> 「コンピュータ概論」(第13回、第14回)、「電子文書実務」(第7回、第12回)、 —「経営統計学」(第3回)、「データ分析演習」(第3回)</li> <li>・データの並び替え、ランキング <b>「情報リテラシー」(第10回)</b> <b>「データ分析演習」(第5回)</b></li> <li>・データ解析ツール(スプレッドシート) <b>「情報リテラシー」(第11回)</b> <b>「アプリケーション演習」(第7回)</b></li> </ul>

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIが社会でどのように活用されているのか理解し、自らの専門分野の学びに活用することができるための基礎的素養が身につけられる。

講義科目名称： 経営情報概論

授業コード： 1210290

英文科目名称： Business Administration and Information Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2.0	必修
担当教員			
和川 央、雲然 祥子			
宮古短期大学部（経営情報学科）			
添付ファイル			

正課学生以外の受講 講（■：受講可） （□：受講不可）	正課学生以外の受講 □他学部・他学科 □4大・短大間 □いわてコンソ □科目等履修等
-----------------------------------	--

教育課程	専門教育科目 経営情報科目群（専門基礎科目）
授業形態	講義
資格対応	
授業のねらい・概要	現代の社会や企業、公共団体の経営活動、私たち一人一人の生活において、コンピュータやインターネットは非常に大きな役割と影響力を持っています。AIやロボット、IoTなどのIT技術と通信技術の発展は、私たちの生活やビジネス環境に変化をもたらすため、経済活動の主体となる企業は、経営と情報の融合を図りながら活動することが求められています。そこで、情報や情報技術を社会や企業経営にどのように生かし活用していくのか、社会の現状と企業経営との関係を整理しながら、経営情報学の基礎知識と学科を構成する科目内容について講義します。また、所属する全教員が分担して講義することで、各教員の担当科目や研究分野・内容について紹介し、社会の様々な課題と短大での学びの関係や学問の面白さ、奥深さを学んでいきます。
キーワード《5つまで》	経営情報、情報化社会、ICT、企業経営、データサイエンス
学修目標	①企業経営と情報科学および情報通信技術の関係を理解する ②経営情報学科の理解と構成分野・科目の概要を理解する ③様々な専門分野を学び、学問探求の関心を高め、学問動向を知る ④社会におけるデータ・AI活用とデータリテラシーを理解する
授業の位置付け	CP3、CP5 本講義は「数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルのモデルカリキュラム(備考参照)」の導入3. 社会におけるデータAI・利活用、基礎2。データリテラシーに対応する。
授業の計画	第1回 ガイダンス：経営情報とは 第2回 情報の利用（図書館利用の案内と資料検索の方法） 第3回 経営学と情報科学（経営学・経済学分野のカリキュラム構成と特徴、情報科学との関係） 第4回 情報通信技術の発展と展開（情報学分野のカリキュラム構成と情報通信技術の動向） 第5回 社会と情報通信技術（経営情報分野のカリキュラム構成と特徴、位置づけ） 第6回 学修目標の設定と学修計画 第7回 各教員の担当科目と専門分野の紹介① 第8回 各教員の担当科目と専門分野の紹介② 第9回 各教員の担当科目と専門分野の紹介③ 第10回 各教員の担当科目と専門分野の紹介④ 第11回 各教員の担当科目と専門分野の紹介⑤ 第12回 各教員の担当科目と専門分野の紹介⑥ 第13回 各教員の担当科目と専門分野の紹介⑦ 第14回 各教員の担当科目と専門分野の紹介⑧ 第15回 社会におけるデータAI・利活用とデータリテラシーとまとめ
教科書【学生が必ず準備するもの】	特になし。
参考書等	各講義にて適宜提示します。
授業の形式	配布資料、パワーポイント等に基づく講義を中心に行うが、授業中に周囲の受講生との意見交換やグループワーク、課題作成を行ってもらうことがある。
成績評価の方法	学習目標①、②に対し各自の学び等に関する課題(30%) 学習目標③に対し、各教員の担当回に対するコメントシート(70%) をもとに総合的に評価する。なお、成績は「合」もしくは「否」を与える。
授業前・授業後の学修	(授業前学習) ・企業の経営や情報科学分野の社会的動向についての知識が必要なため、事前に新聞や記事などを読み、問題意識をもつこと。 ・事前に配布する資料を読み、わからない用語や授業で確認したいポイントを確認しておくこと。各教員担当講義では授業に臨むための課題が出される場合がある。 (授業後学習) ・連続的な講義内容であるため既に学習した内容を復習してから次の授業に臨むこと ・各教員担当講義では講義内容に関連した課題が出される場合がある。

履修にあたっての留意点	この授業は系統的、連続的な講義内容であるため2/3以上の出席を単位認定の前提とする。
実務経験を生かした授業内容	
備考	数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム <a href="http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_literacy.html">http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_literacy.html</a>

講義科目名称： 情報社会論

授業コード： 1210379

英文科目名称： Information Society

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2.0	選択必修
担当教員			
和川 央			
宮古短期大学部（経営情報学科）			
添付ファイル			
正課学生以外の受講 （■：受講可） （□：受講不可）	正課学生以外の受講 □他学部・他学科 ■4大・短大間 □いわてコンソ ■科目等履修等		
教育課程	宮古短期大学部 専門教育科目 経営情報科目群 基礎科目		
授業形態	講義		
資格対応			
授業のねらい・概要	インターネットやSNSなどのネットワーク技術の進展に伴い、情報の発信、収集は容易になっている。一方で、膨大な情報の質をどのように評価するか、意図しない情報の拡散をどのように防ぐのか、新たな課題も生じている。授業では、情報化社会における「情報」の取扱いについて、「研究倫理」、「経営」、「政策」、「AI」の4つのテーマで論じることで、研究を進める際に求められる情報の収集、情報の活用、情報の管理に必要なリテラシーを習得する。		
キーワード《5つまで》	情報公開、個人情報、データリテラシー		
学修目標	1 研究推進に必要な情報収集、情報活用、情報管理に必要なリテラシーを理解することができる。 2 情報化の現状、今後の展開可能性を理解することができる。		
授業の位置付け	CP3、CP5 ※本講義は「数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルのモデルカリキュラム（備考参照）」の導入1. 社会におけるデータ。AIの利活用の1-1、1-2、1-3、1-4、1-5、1-6に対応する。		
授業の計画	第1回 ガイダンス 第2回 情報と倫理①（研究倫理） 第3回 情報と倫理②（知的財産） 第4回 情報と倫理③（個人情報） 第5回 情報と倫理④（プライバシー） 第6回 情報と政策①（データ・AIの活動領域） 第7回 情報と政策②（データ・AI利活用のための技術） 第8回 情報と政策③（データサイエンスのサイクル） 第9回 Society5.0①（データ駆動型社会） 第10回 Society5.0②（IoT、ビッグデータ、オープンデータ） 第11回 Society5.0③（データ解析） 第12回 第4次産業革命 第13回 情報とAI①（モデル化とシミュレーション） 第14回 情報とAI②（モデル化とシミュレーションの実践） 第15回 試験 ※学生の理解状況等によって内容を変更する場合があります		
教科書【学生が必ず準備するもの】	なし		
参考書等	授業の中で適宜紹介する。		
授業の形式	講義形式		
成績評価の方法	期末テストで6割以上の点数を取得すること。 ※試験に代えてレポートの提出を求める場合がある。		
授業前・授業後の学修	なし		
履修にあたっての留意点	なし。		
実務経験を生かした授業内容			
備考	数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム <a href="http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_literacy.html">http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_literacy.html</a>		

講義科目名称： 情報リテラシー [アプリケーション演習 (～R5 授業コード： 1210383 入学) ]

英文科目名称： Information Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2.0	選択
担当教員			
菊池 護			
宮古短期大学部 (経営情報学科)			
添付ファイル			

正課学生以外の受講 (■：受講可) (□：受講不可)	正課学生以外の受講 ■他学部・他学科 ■4大・短大間 □いわてコンソ ■科目等履修等
----------------------------	--

教育課程	専門教育科目 経営情報科目群
授業形態	講義・演習
資格対応	
授業のねらい・概要	情報処理端末の普及により、報告書や説明資料などの文書をパソコンで作成する機会がふえている。そのため本講義では、パソコンのアプリケーションソフトとしてよく使用されている文書編集ソフト、表計算ソフトの基本的な使い方について学習する。また表計算ソフトの演習をしながら、表計算ソフトで必要となるデータリテラシー（データを読む、説明する、扱う）についても学習する。
キーワード《5つまで》	パソコンスキル データリテラシー 文書編集ソフト 表計算ソフト 情報モラル
学修目標	①パソコンの基本的な操作ができる ②Excelを使った基礎的なデータリテラシーを習得できる ③Wordで文書を作成し、他者に意図を伝達できる
授業の位置付け	CP5 ※本講義は「数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルのモデルカリキュラム（備考参照）」の導入1. 社会におけるデータ。AIの利活用の2-2, 2-3に対応する。
授業の計画	第1回：ガイダンス・プリンターの設定 第2回：メールソフト・グループウェアの活用 第3回：文書編集ソフトの基本的な使い方(1) 第4回：文書編集ソフトの基本的な使い方(2) 第5回：データ処理方法と統計処理(1) 第6回：表計算ソフトの基本的な使い方(1) 第7回：表計算ソフトの基本的な使い方(2) 第8回：データ処理方法と統計処理(2) 第9回：表計算ソフトの活用(1) 第10回：表計算ソフトの活用(2) 第11回：表計算ソフトの活用(3) 第12回：表計算ソフトの活用(4) 第13回：プレゼンテーションソフトの利用(1) 第14回：プレゼンテーションソフトの利用(2) 第15回：まとめ、試験
教科書【学生が必ず準備するもの】	「Word&Excel 完全ガイド 改訂第2版 [Office 2021/2019/2016/Microsoft 365対応] 基本操作+疑問・困った解決+便利ワザ」 国本 温子 SBクリエイティブ
参考書等	配布資料
授業の形式	個人ノートPCを用いた演習
成績評価の方法	・平常課題：30%、期末試験：70%により評価する。 なお、各項目で60%以上達成（期末試験では60%以上の点数を獲得）することが単位取得の条件である。 教科書にて予習しておくこと。授業後は授業中に行わなかった教科書の練習問題を復習することで、授業内容を習得する。
授業前・授業後の学修	
履修にあたっての留意点	各自のノートPCを使用する。 この授業は連続的な講義内容であるため2/3以上の出席を単位認定の前提とする。
実務経験を生かした授業内容	
備考	数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム <a href="http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_literacy.html">http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_literacy.html</a>

講義科目名称： 情報ネットワーク概論

授業コード： 1210293

英文科目名称： Introduction to Information network

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2.0	選択必修
担当教員			
菊池 護			
宮古短期大学部（経営情報学科）			
添付ファイル			
正課学生以外の受講 講（■：受講可） （□：受講不可）	正課学生以外の受講 □他学部・他学科 ■4大・短大間 □いわてコンソ ■科目等履修等		
教育課程	専門教育科目 情報科学科目群（専門基礎科目）		
授業形態	講義		
資格対応			
授業のねらい・概要	現在の日本は高齢化や少子化により働き手の不足が深刻な問題となっており、DX（デジタルトランスフォーメーション）推進が行われている。そのDXの1つの技術として、情報ネットワーク技術がある。本講義では、情報ネットワーク技術に関する基礎知識と情報ネットワーク技術の動向について学習する。また現代では、情報ネットワーク技術を活用したデータのやり取りが日常頻繁に行われているが、それらデータを扱う留意事項について理解している人は少ない。そのためデータやAIを扱う留意事項も学習することにより、情報処理技術者としての倫理観を養うことも授業のねらいとしている。		
キーワード《5つまで》	ネットワーク構造、情報セキュリティ、AI、SDGs、Society5.0		
学修目標	①情報ネットワークおよび情報技術（ICT）に関する基礎知識を理解できる ②データおよびAIを扱う上での留意事項を理解できる ③情報セキュリティについて理解できる		
授業の位置付け	CP3、CP6 本講義は「数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルのモデルカリキュラム（備考参照）」の心得3．データAI・利活用における留意事項に対応する。		
授業の計画	第1回：ガイダンス 第2回：ネットワーク構造 第3回：通信プロトコル 第4回：インターネットの仕組み 第5回：情報セキュリティ・暗号化技術(1) 第6回：情報セキュリティ・暗号化技術(2) 第7回：情報セキュリティ・暗号化技術(3) 第8回：産業システムとICT 第9回：AI(1) 第10回：AI(2) 第11回：AI(3) 第12回：VRとウェアラブルデバイス 第13回：SDGs 第14回：Society5.0 第15回：まとめ、試験		
教科書【学生が必ず準備するもの】	「キーワードで学ぶ最新情報トピックス2024」奥村晴彦、佐藤義弘、中野由章 日経BP社		
参考書等	配布資料		
授業の形式	講義が中心となるが、適宜演習を実施して理解を深める。		
成績評価の方法	目標①から③の達成度を、平常課題（30%）、期末試験（70%）で評価する。なお、各項目で60%以上達成（期末試験では60%以上の点数を獲得）することが単位取得の条件である。		
授業前・授業後の学修	授業前：教科書で予習する。 授業後：講義の復習とレポート課題による習熟度の確認をする。		
履修にあたっての留意点	系統的、連続的な講義内容であるため2/3以上の出席を単位認定の前提とする。 講義内でグループ内での討論を行う予定であるため、積極的な授業参加を期待する。		
実務経験を生かした授業内容			
備考	数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム <a href="http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_literacy.html">http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_literacy.html</a>		



学年目標

ディプロマ・ポリシー

1年次  
基礎力の向上、将来に向けた基礎力の修得

2年次  
専門知識の取得、発展、応用

前期

後期

**DP1**  
幅広い教養とグローバルな視野を身に付けている。  
(幅広い教養)

**DP2**  
自らの考えを相手にわかりやすく伝え、他者の意見を尊重し、理解することができる。  
(コミュニケーション能力)

**DP3**  
経営と情報に関連する知識を理解し、他者と協力しながら社会の中で主体的に行動できる。  
(社会への関心)

**DP4**  
企業活動や情報技術に関する知識を修得し、情報技術を企業活動に活用する専門知識や技術を身に付け、社会に貢献できる。(専門知識)

**DP5**  
社会や企業活動の仕組みを理解し、課題解決のための能力を身につけ地域社会及び国際社会に貢献できる。  
(課題発見・問題解決能力)

基礎教育科目

専門教育科目

科目  
ゼミ

形成科目  
キャリア

教養科目	数学入門 心理学 法学 地域言語学	日本語文書・表現法 現代日本語形成論 ビジネスマナー	言語表現論 地域社会実習	地域総合講座 日本語Ⅰ(留学生対象) 日本語Ⅱ(留学生対象) 教養特講A 教養特講B
------	----------------------------	----------------------------------	-----------------	--

英語科目	基礎英語Ⅰ	基礎英語Ⅱ 検定英語Ⅰ	検定英語Ⅱ 総合英語Ⅰ	総合英語Ⅱ 英語特講A 英語特講B
------	-------	----------------	----------------	-------------------------

<b>経営科目群</b>	<b>基礎科目</b> 経済学入門 経営学入門	経営管理論 経営戦略論	<b>経営管理科目</b> 経営組織論 人的資源管理論 生産管理論 経営財務論 マーケティング論	<b>関連科目</b> 経営学特講A 経営学特講B
	<b>経営事情科目</b> 企業論	日本経営論 グローバル経営論 中小企業論	経営心理学	
	<b>会計科目</b> 基礎簿記論	簿記演習	会計学	
	<b>経済社会科目</b> 日本経済論	観光学	地域産業論 地域政策論 経済政策論	

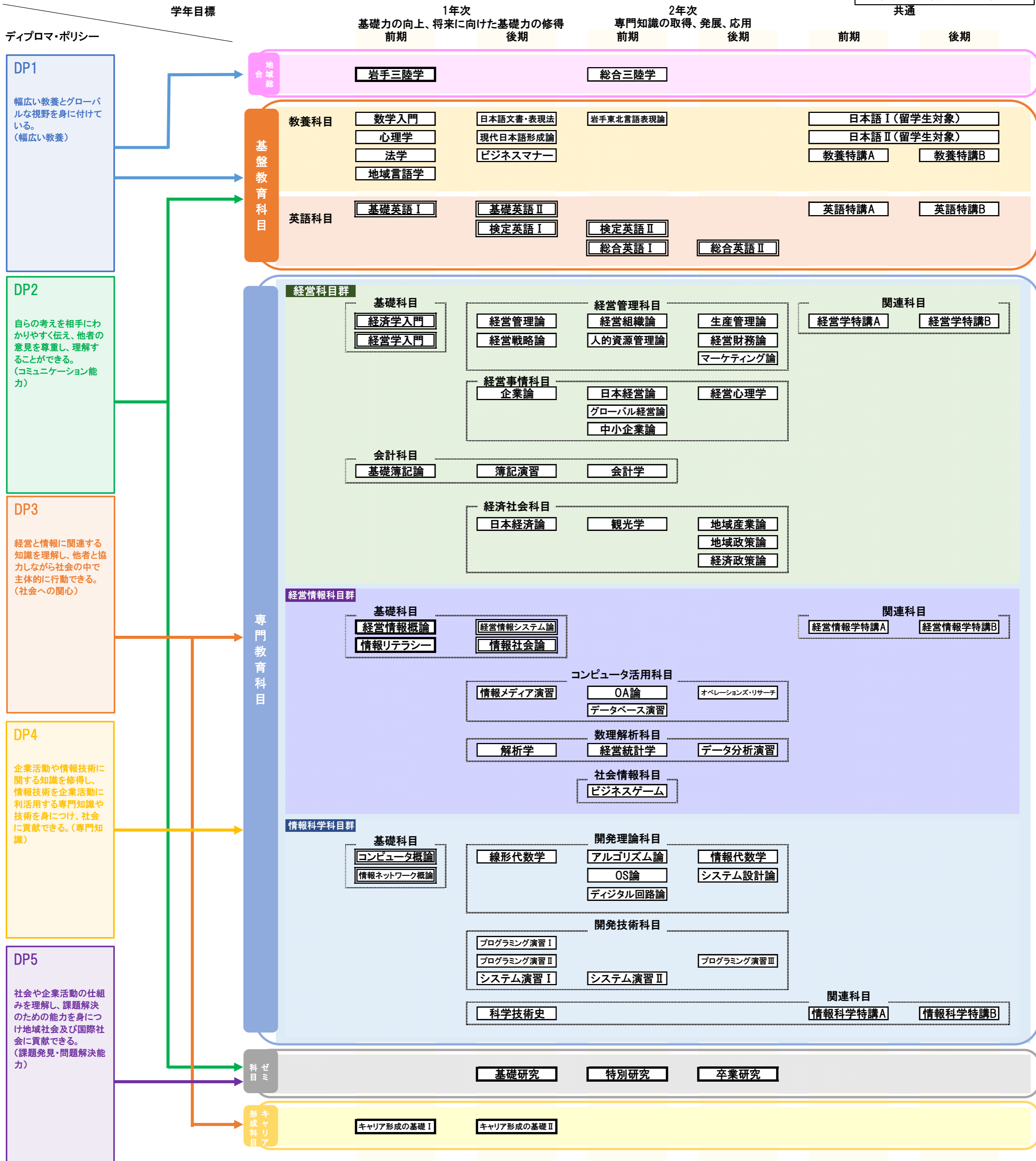
<b>経営情報科目群</b>	<b>基礎科目</b> 経営情報概論 情報リテラシー	経営情報システム論 情報社会論	<b>関連科目</b> 経営情報学特講A 経営情報学特講B
	<b>コンピュータ活用科目</b> 情報メディア演習	OA論 データベース演習	オペレーションズ・リサーチ
	<b>数理解析科目</b> 解析学	経営統計学	データ分析演習
	<b>社会情報科目</b> ビジネスゲーム		

<b>情報科学科目群</b>	<b>基礎科目</b> コンピュータ概論 情報ネットワーク概論	<b>開発理論科目</b> 線形代数学 アルゴリズム論 OS論 デジタル回路論	情報代数学 システム設計論
	<b>開発技術科目</b> プログラミング演習Ⅰ プログラミング演習Ⅱ システム演習Ⅰ	システム演習Ⅱ	プログラミング演習Ⅲ
	<b>科学技術史</b>		<b>関連科目</b> 情報科学特講A 情報科学特講B

基礎研究	特別研究	卒業研究
------	------	------

キャリア形成の基礎Ⅰ	キャリア形成の基礎Ⅱ
------------	------------

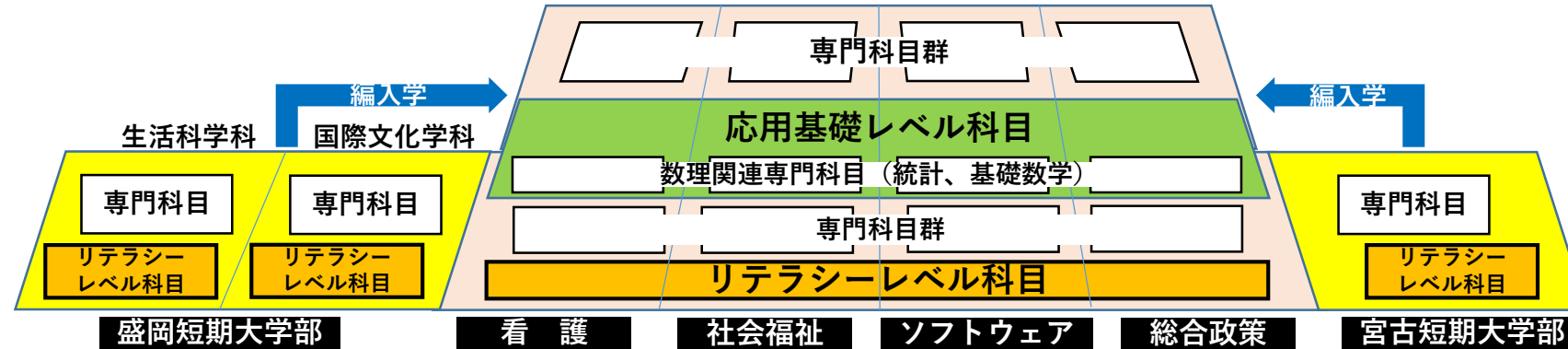
※ □ … 選択  
※ □ … 選択必修  
※ □ … 必修



# 文理融合データサイエンス教育プログラム

## データで世界を知る データで考える データを専門分野に活用する

数理・データサイエンス・AIは、今後のデジタル社会の基礎知識であり、すべての学部生が身につけておくべき素養にあたることから、本学のプログラムでは、大学における学び・研究や、将来の仕事・生活に役立つ数理・データサイエンス・AIの知識・技術を体系的に学びます。



### ○ 教育プログラムの学修目標

「自然」「科学」「人間」が調和した新たな時代の創造（建学の理念より）に寄与できる人材育成のための教育プログラムとして、リテラシーレベルと応用基礎レベルを開講します。各レベルの学修目標は、それぞれ次のとおりです。

<リテラシーレベル>

数理・データサイエンス・AIが社会でどのように活用されているのかを理解し、自らの専門分野の専門分野の学びに活用することができるための基礎的素養を身につける。

<応用基礎レベル>

リテラシーレベルの発展的な内容を理解し、自らの専門分野の課題解決に数理・データサイエンス・AIを応用するための基礎能力を身につける。

### ○ 教育プログラムの特色

- ・全岩手県立大学生（短期大学部を含む）を対象とした開講
- ・「数理・データサイエンス・AIモデルカリキュラム\*」に準拠した学習内容 \*数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム作成（2020年4月）  
文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（MDASH）」へ申請予定
- ・リテラシー科目でのノートPCの利用：個人所有のノートPCを活用した演習を行いながら、ICT活用能力の向上を図ります。